

長崎アピール

戦争が起こればまっさきに被害を受けるのは都市でありそこに住む市民である。平和で安全な市民生活を守るという共通の責務をもつわれわれ、世界の24カ国、91都市の代表は、ここナガサキに集い、第2回世界平和連帯都市市長会議を開催した。

われわれは、改めて原爆被爆の実相と被爆者の苦しみにふれ、「今、地球の平和を考える」をテーマに、平和をおびやかしているものは何か、平和実現のため何をしなければならぬか、都市と市民は何ができるのかを真剣に討議した。

われわれは、4年前、平和構築のための都市の役割が極めて大きいことを確認し、都市間の連帯を強め、核兵器の廃絶と軍縮、飢餓と貧困の絶滅をめざして努力することを誓い合った。

そしてこの間、平和を希求する都市の連帯の輪は広がり、非核宣言都市は増加し、各都市は平和への多彩なアプローチを展開してきた。

世界においては、米ソ両国のINF全廃条約の調印、戦略核兵器削減交渉の再開、欧州通常戦力の削減交渉など国際政治の新しい局面が開かれた。

しかしながら、核実験は依然として続けられ、核兵器の高性能化、海の核軍拡、核保有国拡散の懸念など核戦争の危機は今なお続いている。世界の人々は、原子力潜水艦や水爆搭載機の事故に強い不安を抱いている。また、化学兵器や生物兵器の拡散、通常兵器の増強などが行われているのが現状である。

さらに、南北問題や資源問題、民族的確執や人権の抑圧、私利優先の経済活動などが複雑に絡み合って、軍事紛争や飢餓、貧困の解決を困難にしている。また大気や海洋の汚染、緑の激減、生態系の崩壊など、生命の基盤である地球環境の破壊が進んでいる。一方、原子力発電所の事故の多発や核廃棄物の最終処理の問題も大きな懸念となっている。

このような現状を直視すると、平和への道程はなお遠く、われわれの責任は、ますます重大になっている。われわれは、自らの実践とその教訓から、平和を希求する世論を喚起することが現状を打開する最大の力であることを確信し、次の活動目標を掲げて努力することを決意し、全世界の都市と市民が共に前進するよう訴える。

- 1 各都市は自国で連帯の輪を広げ、自国政府に対して、核戦争の阻止、核兵器の廃絶、軍縮の実現をめざして積極的に取り組むよう要請すること。
- 2 非核自治体宣言運動を推進し、核兵器の製造、配備に関する施設については各都市の責任によりでき得る措置をとること。
- 3 大気と海洋の汚染、森林破壊と砂漠化、オゾン層の破壊などの地球環境の悪化を防止するための運動を積極的に展開すること。
- 4 人権や言論の抑圧、貧富の格差と差別意識など平和をおびやかしている諸問題をいろいろな角度から取り上げ、平和教育を推進すること。
- 5 飢餓、貧困などを解決するために各都市はできうる限りの支援活動を行うこと。

われわれはこれらの目標の実現のために、国境を越えて都市間の交流と相互理解を深めるとともに、情報ネットワークを生かして、国際的都市連帯の強化に一層の努力をすることをここに誓うものである。

さらに、この会議の総意として、各国政府及び国際機関に次のことを訴える。

- 1 核兵器は、人間の生存権を奪う最たる存在であり人類にとって絶対悪である。核実験の即時全面禁止と核兵器の廃絶を目指す国際条約成立のため、誠意をもって努力すること。
- 2 速やかにあらゆる軍事紛争の平和的解決を図り、化学兵器、生物兵器の生産、貯蔵の禁止と通常兵器の削減のため英知を結集すること。
- 3 軍備競争に注がれている膨大な軍備費と科学技術を人類の福祉向上に振り向け、貧困、飢餓、環境破壊など当面する諸問題の解決のため積極的に取り組むこと。

1989年8月9日

第2回世界平和連帯都市市長会議